



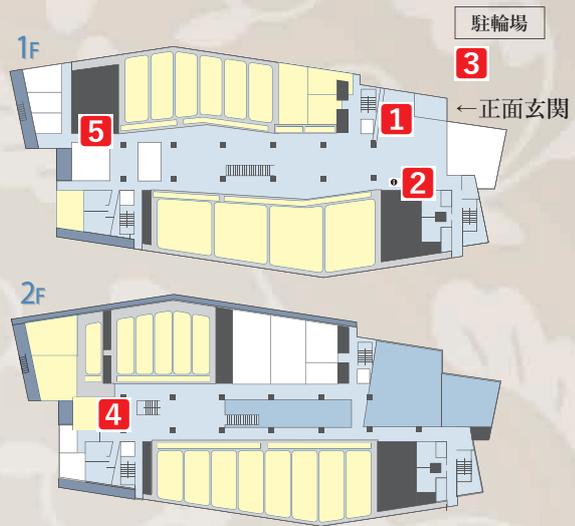
# 新庁舎完成記念 寄贈作品紹介

2017年3月に着工した新庁舎が、昨年1月にオープンし、早一年。外構工事も概ね完了し、市民のみなさまにとってより利用しやすい庁舎になるよう最終調整を行っているところです。

そこで今回は、新庁舎の完成を記念して寄贈された美術作品を、寄贈者のみなさまの想いとともにご紹介します。



## ■設置場所■



### 「たなばた」

2011年制作

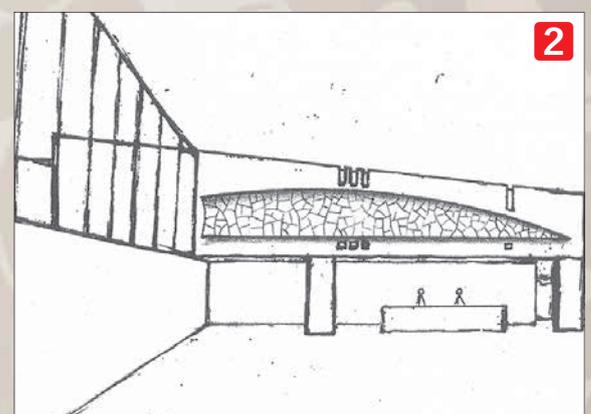
七夕飾りに着想を得た「たなばた」は、見過ごしてしまう日常の景色、行事の中に、私なりの意味を探すことから制作した作品です。多くの石岡市民の方々が来訪される施設の中で、何かのお役に立てれば、大変嬉しく思います。



(撮影 田村孝介)

須藤玲子氏

テキスタイルデザイナー  
石岡市出身。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科テキスタイル研究室助手を経て、(株)布の設立に参加。2015年から石岡市ふるさと大使。



### 「常世の国の太陽」

2019年制作

常陸国風土記によると石岡市は、かつて日出る東の最も重要な国として、常陸国の国府が置かれ常世の国(ユートピア)と呼ばれていました。青磁陶板245枚による今作は、今まさに地平線から昇る太陽が、石岡の未来を照らし続けることを願い制作いたしました。



浦口雅行氏 陶芸家

1989年東京芸術大学大学院陶芸研究室を修了後、栃木県芳賀町に築窯し、2001年八郷町(現石岡市)に工房を移築。2015年から石岡市ふるさと大使。

▲完成イメージ図(本庁舎総合案内上壁面)  
今年3月の完成を目標に、現在取付工事を  
行っています。



ちっさき  
六崎敏光氏 彫刻家  
1962年茨城大学教育学部美術科卒業後、高校教師の傍ら彫刻家として作品を制作、数々の賞を受賞している。18日国から県近代美術館で開催される美術展に出展予定。

### 「空」 KUU

2018年制作

自然界の空気や風、時の流れ（過去・現在・未来）など「見えないものにもかたちがある」ことを表現しています。  
年代や、その時の気持ちで感じ方は異なるもの。見る人に自由にも感じてもらえればと思います。



小林志津江氏  
日本画家小林巢居人氏の子で同じく日本画家である小林恒岳氏の妻。義父・巢居人氏の作品を管理するとともに、自身も詩人として詩集を出すなど活躍している。

### 「檜若葉」 かしわかば

小林巢居人・1974年制作

この度、石岡市の新庁舎完成を祝し、記念として小林恒岳の父、巢居人の作品『檜若葉』を寄贈させていただきました。  
多くの市民の方々に、ご覧いただければ幸いです。



川畑太史氏 洋画家  
1989年金沢美術工芸大学大学院修了後、山の辺工房（絵画教室）を開設。「人物」や「風」をテーマとした作品を制作。現在、日本人物画協会会長。

### 「想」 そう

2012年制作

幾度となく訪れた筑波山を臨む田園風景に魅せられ、また、人々の温かい想いに惹かれ、作品「想」を寄贈させていただきました。  
石岡市に御縁をいただき大変光栄に存じます。有難うございました。

